

中学校 第2学年 英語科 学習指導案

期 日 平成 24 年 10 月 30 日 (火) 第 5 校時

場 所 天草市立河浦中学校 視聴覚室

指導者 教諭 岡崎 卓

ALT Zachary Johnson

1 単元名

「Unit 5 A New Language Service」 (NEW HORIZON 2 東京書籍)

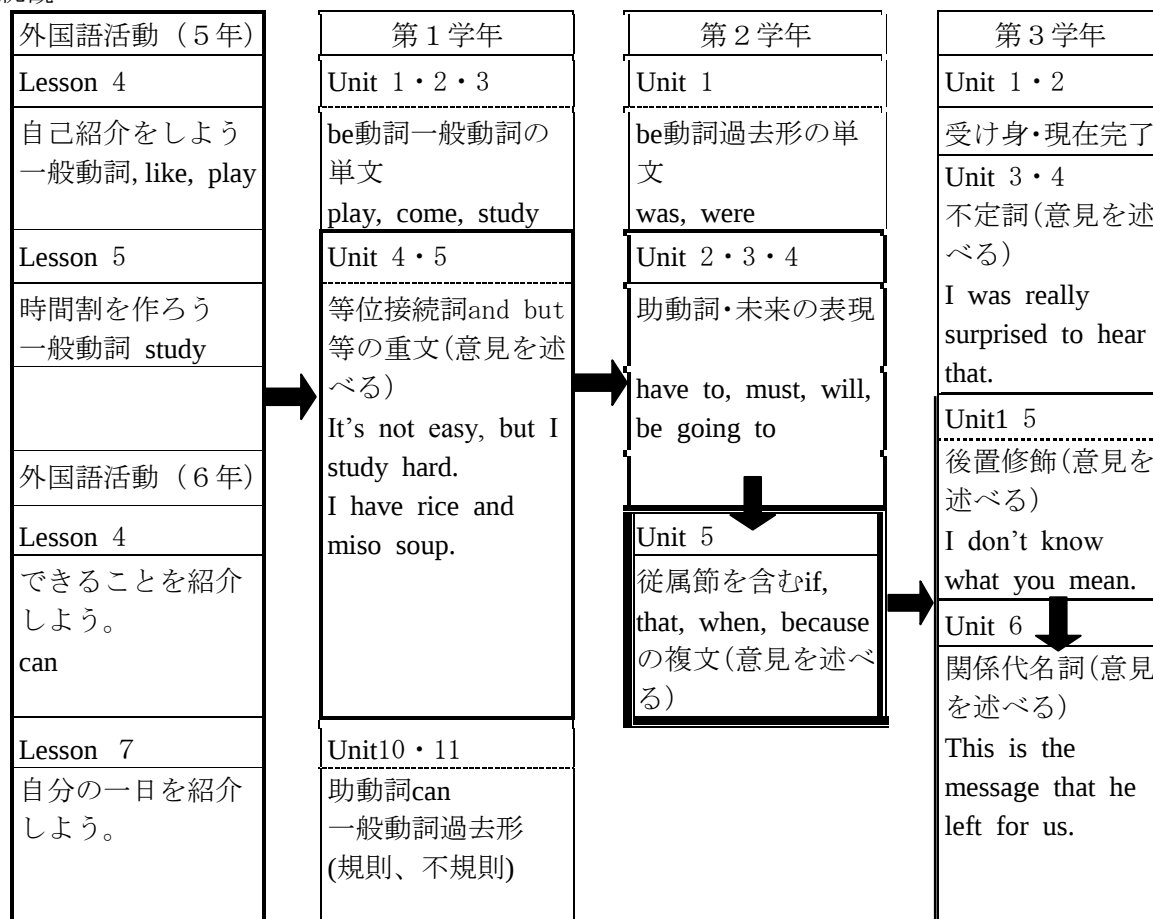
2 単元について

(1) 単元観

近年のグローバル化に伴い、日本で暮らす外国人の数は年々増加してきている。今日、日本で暮らす外国人登録者数は 200 万人を越え、更に増加する見通しである。このような状況で外国人が日本でどのように暮らしているのかを考えることは、彼らと共存していく上で非常に重要なことである。本単元は、緑市国際交流センターの広報誌の記事をはじめ、新しいサービスについての新聞記事やそれに対する意見を読むことで、住民として日本に暮らす外国の人たちが直面する様々な問題について考えることができる内容である。また、彼らと共存するために自分たちには何ができるのかを考えながら、これからの社会がどうあるべきかについて思いを巡らせることができる題材である。

新出の言語材料は、接続詞 *if*、*that*、*when*、*because* である。学習指導要領の改訂において示された教育内容に関する主な改善事項の一つである「言語事項の充実」を図る視点からは、新出言語材料と既習表現を使いながら、詳しく説明したり、報告したり、相手の考えに対する賛成意見や反対意見について理由を付けて述べたりする言語活動に取り組むことができる。また、それらの言語活動を通して、相手に自分の意見などを論理的に分かりやすく伝える実践的な英語力を身に付けさせることが期待できる単元である。この単元での言語材料の使用場面は、「b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面」であり、「言語の働き」としては、「d 考えや意図を伝える」のうち「賛成する」「反対する」「意見を言う」などの言語活動に当たる。

(2) 系統観



(3) 生徒観

- 本年度4月実施の標準学力検査の結果を考察すると、クラスの平均偏差値は全国平均より高いが、個別の支援が必要な生徒がいる。また、県学力調査の結果では県平均を上回ったものの、書くことにおける定着率が低い。オーラルのパターンプラクティスからどのようにして書く活動につなげていくかが課題として挙げられる。
- レディネステストの結果を見ると、既習している接続詞 **and**、**but**、**so** の役割は理解しているが、等位接続詞と従属接続詞の違いをはっきりとは理解せずに使用している誤答が見られる。より論理的な文章を書く力を身に付けさせるために、接続詞のパネルを掲示する等の手立ての工夫が必要であることが分かる。

【Readiness test の結果より】 9月5日実施 調査対象：24人

1. それぞれの文の () 内に接続詞を入れ、意味が通るように英文を完成させなさい。

and but because so

- | | |
|---|-----------|
| (1) I like to swim in the sea () I like summer the best. | 正解者数(11人) |
| (2) I have no time to watch TV () I am busy. | 正解者数(18人) |
| (3) I study English very hard () I can't speak English well. | 正解者数(20人) |
| (4) I play soccer every Sunday () My sister plays it, too. | 正解者数(14人) |
| (5) I love Kawaura () it has many things to see. | 正解者数(15人) |

2. 日本語にあう英文になるように () 内の語を並びかえましょう。

- (6) 本を読みたかったので、私は図書館に行きました。 正解者数(15/24)

(wanted / I / because / to / I / the library / went) to read a book.

_____ to read a book.

誤答：I wanted to the library because I went to read a book.

I wanted because I went to the library to read a book.

- (7) 私はイヌが好きです、でもネコは嫌いです。 正解者数(23/24)

(but / I / don't / like / like / I / dogs / cats)

(誤答：I like dogs I don't like but cats.)

- 5月に実施したアンケートの英文を分析すると、つなぎ言葉を使っている生徒は24人中1人であり、まとまりのある文章を書くためにつなぎ言葉を使う技能が備わっていない。また、英語のパラグラフを特徴付ける一貫性や結束性も低いことが分かった。英語で論理的に考え、まとまりのある文章を書くことが苦手である。
- 県学力調査の結果では、コミュニケーションに対する意欲・関心・態度の観点が県平均を下回っている。しかし、他の3観点は県平均を上回っている状態である。このことから、英語を理解することはできているものの、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとすることに自信がなく躊躇している状態であることが分かる。

(4) 指導観

- 単元においては、接続詞の **if**、**when**、**that**、**because** が新出である。それらを定着させるために、新出事項を盛り込んだ自己表現等をペアワークなどで繰り返行う。
- warm up 部分の帯活動や、文法のまとめの場面で、英語音声教材 “I Can Do It” を使いキーセンテンスをディクテーションするなどの言語活動を設定して、生徒の理解を深める。また、家庭学習でも容易に取り組みやすすくするため、授業内容と “I Can Do It” の内容に対応させた表を配付して学習を促す。
- 表現活動において相手の発表内容を理解し、I think that your idea is really nice.や It was fun, and I learned a lot from your presentation.等の発表内容に沿ったコメントを述べる活動等、生徒間でインタラクションのある言語活動を中心とした授業を展開する。
- 思考を深める具体的な方策として、他の生徒の書いた英文にコメントしたり、批評したりするなどの

言語活動を授業に取り入れる。

- 学習活動の流れを板書して生徒に確認させることで、学習に対する見通しをもたせ、ペアやグループでの活動をよりスムーズにし、明確な目標を持たせる。

Aプロジェクト 思考力、判断力、表現力等の育成の視点から	
新出の文法事項や語彙を使った一文単位の発話ではなく、生徒自身の生活や体験に密着した言語使用場面を設定し、つなぎ言葉や接続詞等を使って、文と文のつながりを意識した一貫性のある情報を発信する言語活動に取り組む。さらに、自分の考えをまとめるだけでなく、お互いの英文を批評し改善していく学習活動を通して、思考をさらに深める授業を展開する。	

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	○if、 when、 because の各節を用いた文の形・意味・用法を理解し、自分自身の考えを表現できる。 ○that 節（目的）を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 ○新聞記事を読んで内容を理解し、またそれを参考にして簡単な記事を書くことができる。 ○従属接続詞を適切に用いながら、つながりを意識してまとまりのある文章を書き発表することができる。
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	①従属接続詞を用いて、自分が思っていることについて進んで発表したり書いたり、対話したりしようとしている。
外国語表現の能力	①教科書本文の英文記事を読み、その内容について自分の意見を書いたり発表したりすることができる。 ②従属接続詞を適切に用いて、自分の思いや考えを書いたり発表したりすることができる。
外国語理解の能力	①本文中の英文の記事を理解し、要点や概要を説明することができる。
言語や文化についての知識・理解	①従属接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。

4 指導・評価の計画（11時間取扱い 本時11／11）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※プロジェクトの視点から	評価基準（評価方法）
1	1	○if節を用いた文の形・意味・用法を理解し、練習問題に取り組む。	・接続詞で結ばれる2文には必ず主語と動詞が含まれること（重文・複文）を説明する。	知識・理解①（ワークシート）if節の意味や用法を理解することができる。
	2	○if節を含んだ広報誌の記事を読み取り、内容に対してのQ&Aを行う。	・文と文のつながりを意識させ、記事の論点を読み取らせる。	外国語理解の能力①（ノート）if節の文に注意をしながら、広報誌の記事の内容を理解し、質問に答えることができる。
2	3	○that節を用いた文の形・意味・用法を理解し、ベッキーの話している内容を読み取る。	・that節の用法が使える状況などを考えさせ、より実践的な使い方を考えさせる。	知識・理解①（ワークシート）that節を用いた文の意味や用法を理解し、対話文の内容を理解することができる。

	4	○ペアでthat節を含んだ対話文を作成して、発表したり、それについて感想を述べたりする。	・感想を述べる際、I think that～.などを使わせ、定着を図る。 ※つなぎ言葉を使いながら、文と文のつながりを意識したまとまりのある英文を書かせる。	外国語表現の能力①（発表・ワークシート） that節を含んだ対話文を6文程度で作成し、発表することができる。
3	5	○when節の用法を理解し、簡単な自己表現をする。	・文と文のつながりを意識させながら自己表現を繰り返し行い、従属接続詞の使い方を定着させる。	知識・理解①（ワークシート） when節の意味や用法を理解し、使用場面を考えてwhen節を用いながら自己表現をすることができる。 コミュニケーションに対する意欲・関心・態度①（観察） 自分が思うことを積極的に表現しようとする。
	6	○when節を含んだ新聞記事を読み、サービスの内容を考える。	・生徒に従属接続詞を探させて、つながれた文の意味をつかませる。	知識・理解①（ワークシート） サービスが始まる理由や内容を具体的に理解し、本文の内容についての質問に答えることができる。
4	7	○because節を用いた文の形・意味・用法を理解し、好きな教科について理由も合わせた自己表現をする。	・副詞節や名詞節を導くことを視覚的にも分かるようにし、混乱を防ぐ。	知識・理解①（ワークシート） because節の意味や用法を理解し、because節を用いて理由を述べることができる。
	8	○because節を含んだ提案文を読み取る。	・接続詞で結ばれた節のつながりを意識させ、内容理解のためのキーワードを押さえる。	知識・理解①（ワークシート） 易しい日本語を使うなどの具体的な内容を読み取ることができる。
5	9	○従属接続詞の用法を復習し、それらを使って新聞記事を完成する。	・これまで学んだ従属接続詞を視覚的に分かりやすく掲示し、論理的でつながりのある文を書くためのヒントとする。 ※つなぎ言葉を使いながら、文と文のつながりを意識したまとまりのある英文を書かせる。	外国語表現の能力①（ワークシート・観察） 5W1Hと従属接続詞を使って記事を書き、それについての意見を発表することができる。
6	10	○従属接続詞の使い、ペアで河浦町をPRする文を作成する。	・まとまりのある文を作成するために、接続詞を効果的に使うよう促す。 ※新出言語材料だけでなく、既習事項を使ったり、自らの思いを伝えたりする学習活動を設定し、つながりを意識したまとまりのある英文を書かせる。	外国語表現の能力②（ワークシート・観察） 従属接続詞等を適切に使い、つながりを意識した河浦町をPRする文を作成することができる。
6	11本時	○ペアで作ったPR文を他のペアと交換しお互いアドバイスをしながら改善し発表する。	・他のペアのアドバイスを参考にして、自分達のPR文をさらに改善し、発表する。 *PR文として、読み手によりアピールできる英文にするための視点を基に、グループワークで英文を批評し、リライトさせる。	外国語表現の能力②（ワークシート・観察） 従属接続詞等を用いて、まとまりがある文章を4文程度で作成し発表することができる。

5 本時の学習

(1) 目標

従属接続詞を用いて、河浦町のPR文を詳しく書くことができる。

(2) 評価基準

「外国語表現の能力」(ワークシート、発表)

(B基準) 従属接続詞を用いて、まとまりがある4文程度の文章を作成し、発表することができる。

(A基準) 従属接続詞を効果的に用いて、自分の考えをより明確に伝えるような5文程度の文章を作成し、発表することができる。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Aプロジェクトの視点	備考
導入 15分	1 ウォームアップをする。 【ペア】 (1) Greeting weather、day、date、 breakfast (2) ライティングパワー アップトレーニング	○OK, everyone. Let's greet each other. ○Make pairs and let's begin "Writing training". ○Do you think Kawaura junior high school is nice?	○T2のALTと協力して元気に活 動できる雰囲気を作る。 ○これまで学んできた既習事項を 生かしてトレーニングを行う。	プロジ ェク ター PC
展開 32分	2 既習事項(従属接続 詞)の復習をする。 3 グループ内で作成し たPR文を改善する。 隣のペアと班を作り、4 人組(作成者2名、アド バイザー2名)でPR文に ついて見直しのポイント を基に協議を行い、表現 や従属接続詞の工夫など の加筆を行う。 【ペア→グループ】 4 改善したPR文を発 表する。 (1) クラスを半分に分け、発 表し、PRがしっかりでき ているペアをそれぞれ一つ選 ぶ。【グループ】 (2) グループ内で選ばれ たそれぞれのペアがク ラス全体に発表し、ザッ カリ先生にどちらの PR文がより河浦町をア	○Let's review grammar points of this unit. ○前時で書いたPR文をグ ループで見直し、改善が必 要な部分は付け加えをし ましょう。見直しのポイン トを参考に、より説得力の ある文章に改善すること が大切です。 〈見直しのポイント〉 ① 内容に具体例があ るか。 ② 接続詞の使い方が 正しいかどうか。 ○接続詞を有効に使い、河 浦町をよりよくPRできて いるペアを選ぶ。 ○改善作業で良くなって いる箇所や、文のつながり の良い点を生徒に示す。 ○友達の発表に対してコ メントや質問を行いまし ょう。	○時間をかけずポイントのみを 素早く押さえる。 ○見直しのポイント提示し、自分 達の文章を改善させる。 ※目標言語材料だけでなく、既 習事項を使ったり、自らの思い を伝えたりする学習活動を設定 し、つながりを意識したまと まりのある英文を書かせる。 ○友だちからのアドバイスを もらうことで自分たちの作品を よりよいものにしていく。 ※視点を基に、お互いの英文を 批評し改善する。 ○作成が進まないペアには投 影してある例文を読ませ、改 善のきっかけとさせる。 評価：外国語表現の能力① (ワークシート・発表) B：従属接続詞を用いてまと まりがある4文程度の文章を 作成し発表することができる。 〈B基準に達しない生徒への手立て〉 ヒントカードを活用し、文章作成 のヒントを示す。	ワー ク シ ー ト 実物 投 影 機 プロ ジ ェ ク ター

	ピールしていたか決定してもらおう。 【一斉】			
整理 3分	5 本時のまとめを行い、再度文法事項のポイントを押さえ、次時につなげる。	○文章を書くときは読み手のことを考えて分かりやすく書くことが必要です。そのために、接続詞を適切に使うことが大切です。	○本時で学んだことの共有化を図る。	